

弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 text by Tairik Sada +

子どもの笑顔

お客さんがホールの扉を開いて外に出る時、入場したときより笑顔になって帰ってほしいと願うのが、コンサートを開催する者の気持ちです。

本番中にはアクシデントも起きるし、面白い出来事も生まれます。もちろん、僕たちだけでなく裏で支えてくださるチームにもドラマが生まれます。当日まで様々な煩雑な準備、集客からチケット販売、当日の導線に至るまで、やる事がたくさんあります。本番後に見る、スタッフさんの安堵の顔、やり切った涙。決して外に出ないその裏側に、心動かされます。

この間、僕の心が大きく動かされた出来事がありました。その日は晴天で、風の気持ちいい午後のコンサートでした。コンサートを手伝い、裏で一生懸命動いてくれたのは小学生の男子のR君。細身で常にニコニコした笑顔の、活発で利発な印象の子どもでした。

R君は他の子どもと比べても一層楽器に興味を持ったようで、終演後に「とっても良かったよ！ヴァイオリン凄く好きになったよ」と懐いてきたので、「お、じゃあ何か演奏しようか？」と近くで弾くと、「おおおすげえ！初めてこんなに近くで聴いたよお」と目をキラキラさせていました。

そうか、そんなに喜んでくれるなら嬉しいな、カワイイヤツめと思ひ、

僕はその後スタッフの方に何気なく「ずっとニコニコしてて明るくてカワイイ子ですね！」と話をすると、そのスタッフさんはポツリポツリと話してくれました。

「そう…R君、本当にいつも明るくてみんなに優しい子なんです。自分より小さい子にもとても優しくしてねえ」。そうでしょうね、と頷くとスタッフさんはこう続ける。「でも彼は母親を亡くしてね、お父さんとも離れているから今はおばあちゃんと2人暮らしなんです。この間〇回忌を終えたばかりでね、彼も心中とっても辛いはずなのに、こっちが心配するくらい弱みを見せないんですよ。とにかく人が大好きでね、こうして色んな人の懐に飛び込んで行くことが、今の彼の心が欲していることなんですよね」。

全国に児童養護施設は約600カ所あり、4万5千人の両親と暮らせない子どもがいます。子どもは未来の国の宝物です。必ずしも両親がいるから良いわけではないし、両親がいないから不幸と決めつけるのは傲慢な考えです。

ただ、R君を通じて、彼の見える世界を垣間見、想像した時に、彼の幸せな成長を願わずにはいられませんが。

世界の人口を考えると、人生で関わる人との出会いの確率は奇跡的です。だからこそ、誰もがこれから出会う

誰かとの関係は素敵なものになってほしいと願うし、自分もそうでありたいと思います。

profile

TAIRIK(たいりく) ヴァイオリニスト / ヴィオリスト / 作曲家

桐朋学園大学音楽部卒業、同大学院修了

ヴァイオリン & ピアノによる3人組インスト・ユニット「TSUKEMEN」を結成後、キングレコードよりメジャーデビュー。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパなどで700本を超える舞台に立ち、50万人以上の観客を魅了。近年ではTSUKEMENに加え、古澤巖氏と結成した弦楽四重奏団「品川カルテット」、水谷晃氏と結成した「MIZUTANI × TAIRIK」も大反響を呼んでいる。

「徹子の部屋」「題名のない音楽会」「きょうの料理 栗原はるみのキッチン日和」など数多くのTV番組に出演。SBCラジオ「TSUKEMEN TAIRIKの信 TAIRIK発見」毎週月曜 15:00 台にレギュラー出演中。

<https://tsukemen-music.com>

